

よしかわ通信



りん どう
凛 道



発行

高萩市議会議員

よし かわ どう りゅう
吉川道隆

高萩市安良川686

TEL 0293-24-0833

FAX 0293-22-3340

ホームページ <http://www.douryu.net>

E-mail info@douryu.net

盛夏の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、ひとかたならぬご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

高萩まつりも盛況のうちに終わりました。お祭りの用意が始まると、「ああ、夏が来たなあ」と感じます。夏は、全国各地で花火大会やお祭りがおこなわれ、にぎやかに夏のお楽しみとなっています。子供のころに花火を見た思い出、お祭りに出かけた思い出は、誰もいつまでも心に懐かしく残っているのではないのでしょうか？

高萩市では財政健全化の意味もあり、昨年より花火大会がなくなりました。「お祭りもなくなってしまうのでは？」という心配も聞かれます。私としてはこれ以上、市としての行事がなくなってしまうたら、あまりにも殺風景

になってしまう、子どもたちの、市民の楽しみがなくなってしまうので、例えば、もしかして、期間限定で縮小することはあっても、その火は消さないで、継続できるようにしていきたいと思っています。

平成21年6月議会

一 般 質 問

高萩市の教育について

① 幼稚園教育

質問 去年の陳情により、本年度より始まった、幼稚園の午後3時までの延長保育については、やってみてどうか？教育委員会としての今後の指導は？

教育長答弁▶ 5月13日から実施し、ほとんどの保護者が利用している。午後の授業もそれぞれが創意工夫し、円滑に進んでいる。課題は、保護者、園と話し合いながら進めていきたい。

質問 午後保育にあたる指導者がいない、通常保育の担任の先生が、今まで子供たちの保育に対する準備に充てていた時間をさいて、午後残っている子供たちのことを見なければならぬために先生は苦労しているようだ。前から言っているように、私が言っている「延長保育にしてほしい」ということは、ただ単にこれまでの先生にそのまま時間を延ばしてほしいという意味ではなく、あくまでも、「延長する」ことに対する、人的、予算的配慮をしていただいた上での「延長」でなければ、現場の先生たちを苦しめるだけ。午後の延長時間に関して、非常勤、臨時、ボランティアでもどういう形でもいいから、通常の担任以外の先生を検討していただきたい。

教育長答弁▶ 確かに、幼稚園に障害児がいて大変な状況にあるところもあるし、職員の疲労度等を把握しながら検討したい。

質問 民間のクラブから以前から申し出のある、**スイミング指導**および地元の**サッカーチームによる指導**は、取り入れられないのか？前回の答弁では、「幼稚園教育では遊びを通して総合的に指導されるものであるから、水遊びについては、東幼稚園が東小学校のプールを借りて実施してきたような形で検討したいと思っている」との答弁だった。だから、近隣の私立幼稚園に流れてしまうのでは？高萩市の幼稚園ではこういうことをやっていますという特色の一つになるはず。鹿嶋市では、全公立幼稚園を対象に年3回ずつ、地域のきずなを深めるということで鹿島アントラーズのコーチが訪問してサッカーを教えている。ぜひ、進めていきたい。

教育長答弁▶ どの幼稚園で何をとりいれるのかは、基本的には園長の判断。幼稚園、保護者の考え方を聞きながら研究していきたい。

未就園児対象の体験入園も、回数多くして実施したり、公立幼稚園の魅力づくりとして、野菜の栽培とか、地域人材の活用でミニコンサートを開いたりしながら、園児の確保につなげたいと考えている。

② 高萩市における学校の適正配置について

質問 君田小中学校が対象校となり、地域の方の意見を十分聞いて慎重に進めるとあるが、今後の予定は？

現在の生徒数は、小学校では来年度から一桁、中学校ではすでに今年から一桁となっている。生徒数が少ないために、さまざまな問題がでてくる。集団での活動ができないこと、多様な考え方、コミュニケーション能力の育成の点、運動するにもチームが組めないことなどから考えて検討を進めていくべきでは？

教育長答弁▶ 4月末に、「君田小中学校の将来を考える会」の代表の方に来ていただいて、今後の進め方について話し合いをした。教育委員会の方から、保護者や地域の方に説明に行く前に、まず、将来を考える会から、地域にそのお話をさせていただき、慎重に進めていきたい。

③ 学びの広場について

質問 県教育委員会の施策で、夏休みに小学四年生を対象に四則計算の基礎を学習する「学びの広場」が実施されることになった。市独自で、他の学年、他の教科も取り組んでは？

大阪府では、家庭で勉強する習慣をつけるため、放課後の学校を活用した、「おおさか・まなび舎」事業と呼ばれる新しい試みが昨年9月から始まっている。小中学校で放課後に、子どもたちの自習を教員らがサポートする。週2日、1回2時間で、参加は自由。参加費は無料。授業形式ではなく、児童が自分の課題や学力に合わせてプリントを選んで解く。教員と一緒に、大学生などの「学習支援アドバイザー」が、個別指導をしてくれる。「まなび舎」のそもそもの狙いは、子どもたちが家庭で勉強する習慣を身に着けるようにすること。市長が切望する萩っ子は、「人間味あふれる、体験豊かな一味違った子供たち」、自然に触れることはもちろん大事ですが、**貴重な子供時代、学力向上も大切な「生きる力」のはず**。勉強ばかりにするというわけではなく、小中学校での学習は、人間の基礎の部分なので、きっちり固めてあげる、そのように指導していくのは周りの大人の役目だと思う。

茨城県の進める、「まなびの広場」の範囲を超えて、学びの場を広げた方がいいのではないかと？

教育長答弁▶ 放課後に基礎的事項の定着の時間を設けたり、夏季休業中に何日間か登校日を設けて補習、発展学習に取り組んでいる。四年生以外の学年も学習相談を行う予定。

④ 特別支援教育について

質問 学習障害LDや多動性障害ADHDの子供たちに対する、高萩市における教育体制はどうなっているのか？市で把握している発達性障害、学習障害の子が何人くらいいるのか？そのような障害を持つ子の中には、エジソンやアインシュタインのように、別な分野で、並はずれた才能を持っている子がいるそうだが、それを見つけてあげることが出来ないと、眠ったままになってしまう。そういう子供たちに対する指導方法は考えているのか？

教育長答弁▶ 平成20年度は、小学校で55名、中学校で12名が、通常学級にいて何らかの障害をもっている。各学校に特別支援教育コーディネーターがいて校内のどの先生も共通理解して指導に当たるよう努めている。

⑤ 小学校の外国語指導について

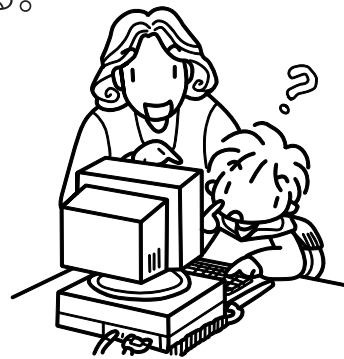
質問 今年から始まり、2011年度より本格導入となった、小学校の外国語指導、高萩市の実施状況はどうなっているのか？

教育長答弁▶ 昨年度のうちに各学校の英語活動の担当予定者が集まり、指導計画を作成し本年度から実施。外国語指導助手と共に活動している。

質問 担任の英語力の格差をなくすため、東京都では、パソコンのソフトを使った英語の指導をしているそうだが、そういう検討はないのか？「担任の先生に急速に英語力をつけていただく時間と予算は現実的には残念ながら、ない、だから補助ツールが必要になるはずだと企業は読んだのでは？」と言われている。

パソコンはこどもにとってはおもちゃ感覚でしょうからまず食いつきがいいし、発音問題、簡単な会話などゲーム感覚でやっていくことができれば、担任の力量を問わない授業、つまり教育の公平さのためには必要ではないか？

教育長答弁▶ 小学校の外国語担当の目的は、人間関係能力の育成、コミュニケーション能力の育成を重点に置いているので、担任やALTとの直接やりとりが中心となる。パソコン導入は要望として受け止める。



議 案 質 疑

議案第36号 松岡小学校建設工事の請負契約について

読売新聞の茨城版に、5月7日行われる松岡小学校の入札の件で、市や読売新聞社に談合や第三者の介入を疑う情報が寄せられたらしいが、具体的にその内容は？市は聞きとり調査をどのような形で行ったのか？

最初、入札参加資格申請が行われて、3社に対して、参加資格を通知したのに、その後の点検で1社の資格に不備があることがわかって取り消したそうだが、不備があることについては、通知をする前になぜ気がつかなかったのか？

総務部長答弁▶ 談合情報は、4月9、21、30日、計3回、口頭で連絡があった。弁護士と県土木課とに相談をした上で入札を行った。合わせて、情報提供者より事情聴取、入札参加者に事情聴取し、具体的な談合の事実が確認できなかったため、JVの入札会社から誓約書をもらうことを条件に、実施した。資格の不備は気付くのが遅かった。

議案第37号 一般会計補正予算 高萩中学校体育館改築工事について

設計のコンセプト、構想はあるのか？事業費の予算は？高萩中だけでなく、秋山中も控えているというのに、財源はどうするのか？

教育次長答弁▶ コンセプトはこれから、規模的には今までと同程度の予定。予算は約3億6000万円。出来るだけ特定財源を使うのが当然だが、改築事業については3分の1、増築については2分の1が国庫補助等で見込まれるので、そういうものをできるだけ活用して、一般財源である市の負担を軽減しながら、身の丈にあった事業を進めていきたい。

議会改革検討特別委員会

- 1、議員定数削減に関する陳情
- 2、議員報酬及び期末手当削減に関する陳情
- 3、行政視察見直しに関する陳情

これらをもとに、議会における改革を進めるよう検討する特別委員会がつけられている。

第二回 4月16日 今後の進め方について

- 1、月に2回の委員会を開催する。
- 2、県内の他の市議会の現状認識を行う。
- 3、陳情者に議会に出席していただきたいという意見があった。

私からは、陳情を早期結論して、せつかく特別委員会をつくったので、見直す点があれば、他の方向からも、検討できることから手をつけていくべきであると意見を出した。

第三回 5月8日 県内議会状況調査結果一覧表と、類似の市の議員定数状況、行政視察の状況、高萩市の議会関係経費のまとめを資料としていただいた。これについて、各自でよく考えてくることになった。

第四回 6月17日 行財政改革がスムーズに進んでいることから、9月の決算を見て、財源の見通しを再度確認してから、検討するという事になった。休会中は審議を行わず、決算特別委員会を終了した時点で、審議を行うことになった。

私が考えるには、決算は、おそらくいい数字が出てくると思うが、いい数字が出たからと言って、議会経費の見直しを検討しないのではなく、陳情書は採択し、少しでも議会としての検討をしていかなければならないと思う。

9月の定例会日程予定

9月4日	本会議（議案上程）
9月7日	本会議（一般質問）
9月8日	本会議（一般質問）
9月10日	議案質疑
9月11日	建設経済委員会
9月14日	文教厚生委員会
9月15日	総務委員会
9月16、17日	決算特別委員会
9月18日	議会改革検討特別委員会
9月25日	本会議（採決）

傍聴においで下さい!!

本会議は一般に公開され、気軽に傍聴できます。本会議当日、市役所玄関受付で、住所・氏名を書いて頂き、傍聴券を受け取り、係員の指示に従って傍聴してください。

各委員会は、委員長の許可により傍聴できます。

傍聴席の数は、本会議は40席、各委員会が10席程度です。

吉川の 考察▶

行財政改革を進めるなか、シンボルタワー・学校校舎等、建物建設の計画が相次いできました。耐震性を求められる時代の流れで、仕方がないかもしれませんが、「行財政改革」「身の丈に合った財政計画」で、市民に対し、かなりの我慢を強いてきたあげく、何億円単位の建設計画が相次いだのでは、「そんなにお金があるの?」という感情が出てくるのではないかと懸念しております。実際、私自身もその計画を聞いて驚いておりました。確かに国からの補助もありますが、全部出るわけではありません。国からの補助は約3分の1です。急に、**今になって無理して次から次から計画を立てるのではなく、余裕があるなら、まず、低下させている市民サービス、様々なものに課せられた使用料、手数料の値上げ、カットされた補助金等を見直して、それから考えていくべきではないか**と私は思います。厳しい財政難を乗り越えるために、市民は協力して納得したはずですから、とりあえず、厳しい状況から脱したのであるなら、まず普通の状態に戻してからでないと批判の声も出てくるかもしれません。家計が厳しいから、必死になって、食べたい物も我慢して、食費を切り詰めて頑張ってきたお母さんが、「何だ。お金あるじゃないか。」と自動車購入を契約してきたお父さんを見たらどう思うでしょう? 「箱もの行政」と言われたいよう、身の丈に合った計画を考えていただきたいと思います。

今回も、教育に関して、いろいろ質問しましたが、なかなか新しいものへの取り組みは進まないのが現状のようです。高萩市は観光面では、近隣の日立市、北茨城市等に及ばない、大手企業の撤退で雇用面でも期待できない、となると何を以て人を引き付けられるか? 独自の教育体制・少子化対策を持つことが、**高萩市の特色づけになれば・・・と私は考えます。**子育てしやすいまち、子どもにとって環境のいいまちには、若い人が集まります。今後、もっと柔軟にどんどん新しいものを取り入れ、**他にはない進んだ教育環境・子育て支援を作っていくべきである**と思っております。